徳島市立6年連続V

女子は池田が3連覇

ハンドボール

全国高校選抜県予選

ハンドボールの第41回全国高校選抜大会徳島県予選最終日は24日、三好市の池田総合体育館で男女の決勝リーグが行われ、男子は徳島市立が6年連続10度目、女子は池田が3年連続9度目の優勝を果たした。徳島市立は47－14で城南を下し、池田は14－11で城北を振り切って、ともに3戦全勝とした。

男女の上位2校が四国予選（来年2月2～4日・高松市香川総合体育館ほか）に進み、男女各2校が全国大会（3月24～29日・神戸市ほか）の出場権を得る。

【男子】決勝リーグ　城東24－19鳴門、徳島市立47－14城南▽順位①徳島市立3勝②城南2勝1敗③城東1勝2敗④鳴門3敗

【女子】決勝リーグ　池田14－11城北、鳴門12－0徳島市立▽順位①池田3勝②城北2勝1敗③鳴門1勝2敗④徳島市立3敗

走力強化 実結ぶ

徳島市立

徳島県予選は「あくまでも通過点」（森内主将）と位置付ける男子・徳島市立は圧巻の戦いぶりだった。立ち上がりから一度も城南にリードを許さず、30点余りの大差で6連覇を達成した。

180センチとチーム一の長身鎌田が相手守備陣に鋭く切り込んで得点すると、森内も負けじとカウンター攻撃から力のあるシュートを立て続けに決めて流れを引き寄せた。

森内は「前の試合はシュートミスが多かったので修正を心掛けた」と会心の笑顔を見せた。

チームの特長は「堅守速攻」。マイボールにした瞬間から素早く、パスの手数を掛けずに相手ゴールに迫る。生命線の走力を鍛えるため「日々の練習で20トルの往復ダッシュを繰り返した」と森内。その成果を存分に見せつけた。

県内では過去5年間、敵なしだが四国予選ではいずれも涙をのんだ。悲願の全国切符獲得に向け、来年1月に山口県のカップ戦に参戦するなどして腕を磨く予定。鎌田は「1対1の強さなどまだまだ。ミスも減らし、四国の壁を破りたい」と意気込んだ。

（平尾貴宏）

徳島市立対城南　後半、徳島市立の鎌田③がシュートを決め41－10とする＝三好市の池田総合体育館